

チェルノブイリ通信



発 行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局
連絡先 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内
TEL・FAX 093-203-5282
E-mail jimu@cher9.to
U R L <http://www.cher9.to/>
郵便振込口座 01770-1-65328 チェルノブイリ支援運動・九州



ベラルーシの田舎の風景。大きな街路樹と木でできた家が並ぶ。

* N.P.O 法人化と団体名称変更にあたってのごあいさつ

* チェルノブイリ医療支援ネットワーク
設立に際して
N.P.O 法人になると、どこが、どう変わるの？

* イベント報告 私たちにできること
～ チェルノブイリと水俣から学ぶ未来づくり～

* 第6回ブレスト検診 報告

* チェルノブイリ原発事故
ベラルーシ、ブレスト州の甲状腺検診

* 事務局長を退任した吉本さんからメッセージ

* チャリティヘアサロン・スネガビーグ 2006報告

* ベラルーシ、ブレストでの第6回検診に寄せて

* 医学生から医師になった
高橋恵理佳さんからのメッセージ

* ～工房のぞみ21を訪ねて～
対話を通じて見えてくる、
ベラルーシの友人たちの今

【チャエルノブイリ支援運動・九州】は、NPO法人として 【チャエルノブイリ医療支援ネットワーク】 に生まれ変わります。

「チャエルノブイリ」に喜らす命を見つめて。
～NPO法人化と団体名称変更にあたってのごあいさつ～

いつもチャエルノブイリ支援運動・九州の活動を支えて下さり、心より感謝申し上げます。

さて、前号の通信とともにお届けしたお手紙の中でもお知らせしました通り、「チャエルノブイリ支援運動・九州」は、NPO法人（特定非営利活動法人）の申請を行い、今月1月の福岡県からの認証をもって、NPO法人となります。

同時に、団体名称を「NPO法人 チャエルノブイリ医療支援ネットワーク」と改め、再スタートを切ることに致しました。



1990年6月28日の設立総会以来、「チャエルノブイリ支援運動・九州」は、多くの方々に支えられながら、これまで任意団体として活動を続けてまいりました。

一人でも多くの被災者の命を救うことを探る目的とし、専門家とNGOとの連携、事務体制の整備、定期的な活動見直しと評価、現地との綿密な信頼関係など、これまでの取り組みに対して国内外より高い評価を受けるまでになりました。これもすべて、多くの皆さまが寄せてくださった善意が為しえたものです。

さて、1990年代後半になり、市民によるボランティア活動や広く公益のために活動するNPO（民間非営利組織）の役割が注目されるようになりました。これを受けて1999年、NPO法（特定非営利活動促進法）が制定され、早い時期より支援運動・九州でもNPO法人化の可能性について慎重な検討を続けてきました。

これまで周囲よりNPO法人化を再三勧められたながらも見送ってきたのには、理由がありました。それは、被災地への支援活動や実施体制がまだ未熟であり、法人化することによって社会的な信頼を高めることや、任意団体よりも責任の所在を明確にし、現地への支援活動をさらに充実させていくには時期尚早と考えたためでした。

しかし、社会が徐々にNPO法人への理解を深めつつあり、また、甲状腺ガン検診はじめとする医療支援体制の着実な進展が実を

結びつつある現状を受けて、支援運動・九州運営委員会において繰り返し検討を重ねた結果、NPO法人申請を行いうという結論に達しました。

また同時に、九州から始まって全国へと広がってきた支援の輪を、今後さらに広げていきたい、多くの方々のご支援ご協力を呼びかけたいという気持ちを込め、団体名を「切尔ノブイリ医療支援ネットワーク」と改めるごとに致しました。

昨年は切尔ノブイリ事故から20年となる節目の年でもありました。

世界中が切尔ノブイリを過去のものと考える中、会員のみなさまや専門家と共に、わたしたちが小さいながら灯し続けた医療支援の光は、今、現地の人々の間で確かな希望の光となりつあります。

切尔ノブイリ20年を越えて、被災者の命を救う活動を続けたい。これまで歩んできた道に続く、これからも切尔ノブイリを多くの方々とともに支え続けたい。

わたしたちスタッフは、みなさまからお預かりしたご寄付を、1円も無駄にすることなく、より確実により効果的に被災者支援につなげることを第一に考えてています。

今後は、支援者のみなさまからの信

頼にお応えできるよう、また広島や日本医科大学の専門家を中心とした、医療関係者の積極的な協力（医療関係者の派遣もボランティアです）のご意志を大切に反映しつつ、さらにより活動を日指していきたいと考えています。

切尔ノブイリは決して終わっていないから、「まだ」20年しか経っていないのです。

これまで活動をお支え下さったみなさま、そして、今回初めてこの通信を手にして下さったみなさま。「切尔ノブイリ」に暮らす命の尊さを見つめながら、ともに被災地で暮らす人びとを支えるお一人となつて下さい」とを心より願います。

これからも変わらぬご支援、ご協力をたまわりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

代表 矢野 宏和

※NPO法人設立を記念し、医療専門家による報告会を3月18日(日)に福岡市内にて開催いたします。

是非とも足をお運びください。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

質問　これまでと寄付の仕方が変わるの？

お答え　いいえ、これまでと変わりません。

現在、支援運動では原則として皆様からのご寄付に最低額等を決めていません。振込用紙には、3000円、5000円、10000円の3つのコースと、のぞみ21支援のためのカンパ、その他のカンパという枠を設けています。しかしこれは便宜上のものであり、1年でいくら寄付するといったことを強いるものでは決してありません。現地への継続的な支援のためには定期的なご寄付が最適ですが、ご寄付を下さるお一人お一人のお気持ちを大事にする意味で、いつでも、お好きな時に、お好きな額をご寄付いただければ幸いです。

質問　NPO法人の「正会員」ってなに？

お答え　寄付をすると会員になるの？

NPO法人の正会員は別途申込が必要です。

これまで切尔ノブイリ支援運動・九州では、ご寄付をして下さった方を「会員」とお呼びしていました。

NPO法人になると、法人としての運営体制を明確化しなければならないため、総会での明確な議決権等を持つ「正会員」を定めています。

正会員となると、総会の議決権があり、また総会への出席義務（委任も可）が生まれます。運営体制や団体の方針決定に積極的に関わってもらい、という方は、この機会にどうぞ「正会員」となり活動をともに作っていただければ幸いです。事務局までご連絡下さい。

なお「正会員」でなくとも、ご寄付をして下さった方へはこれまで通り、「切尔ノブイリ通信」や、総会・報告会等のご案内をお送り致します。

質問 NPO法人になると何が違うの？

お答え

活動内容はこれまでと変わりません。ただし、団体の責任体制、会計監査、規約などがより明確化され、これまで以上に社会的な責任が大きくなります。同時に、公益性を持つ活動に非営利で取り組む団体として、社会的信頼を得ることができます。

そのほかには、これまで代表の個人名義でしか作れなかつた銀行口座等が団体名称で作れるようになつたり、法人税が課税されたり、団体そのものが契約主体となれたり、対象をNPO法人に限定した補助金等へ交付申請を行うことができたりします。

質問 団体名から「九州」が抜けると、九州を離れてしまうの？

お答え

いいえ。これまで通り九州・福岡に拠点を置き、九州全域の会員の方々と関わりを深めながら、支援の輪を全国へと呼びかけていきます。九州にお住まいの会員のみなさまの中に、は、団体名から「九州」がなくなることに一抹のさみしさを感じられる方もいらっしゃるかもしれません。

東京・関西ではなく、敢えて九州・福岡という地方都市に拠点を置く団体として、スタッフ一同「九州」が付く名称には強い愛着を持っています。その気持ちはそのままに、この間の、九州以外の地域で支えて下さる会員のみなさまや支援グループ、医師や臨床検査技師、病院、大学等との関わりが広がりつつあることを受け、実際に人ひとの命を救うことに直結する医療分野に重きを置きつつ、互いにつながり合いながら共に支えていくことを目標にかかげ、「チエルノブイリ医療支援ネットワーク」という名称にすることに致しました。どうぞ会員のみなさまにも「理解いただければ幸いです。

チエルノブイリと水俣をつなげるシンポジウム

私たちにできること

～チエルノブイリと水俣から学ぶ未来づくり～

報告／小山 浩一（チエルノブイリ支援運動・九州運営委員）

昨年はチエルノブイリ原子力発電所事故から20年目の年でした。年月とともに人々の記憶から遠ざかっていきつつあるチエルノブイリ。しかし被害が今なお増加していることはこの目でも確かめてきました。記念の年に支援運動・九州として何かやれないかと準備を進め、12月3日、福岡市の朝日ビルでイベントを開くことができました。

昨年はちょうど、水俣病公式確認から50年にあたる年でもありました。ベラルーシへの支援活動から多くを学びながら、前任校日田市中津江村の中津江小学校の六年生7名を修学旅行で連れていった、水俣市にある胎児性水俣病患者のみなさんが働く作業所「ほつとはうす」との交流も進めてきました。これから時代を生きていくために、私たちがこの二つの歴史的な事件から学ぶべきテーマを実行委員会では「いのち」と「豊かさ」としました。

支援運動運営委員の寺嶋悠さんによるベラルーシの現状報告と支援運動・九州の活動報告は、まさに豊かな経験に裏付けられた的確な内容でした。水俣「ほつとはうす」からは胎児性の患者さんたちも含め10名が参加してくれましたが、代表の加藤たけ子さんから患者さんたちの置かれた状況と一人ひと

りの思いが伝えられました。

(株)ウインドファーム社長で環境活動家の中村隆市さんを交え、寺嶋さん、加藤さん、支援運動・九州代表の矢野さんによるシンポジウムでは、それぞれがベラルーシや水俣などとの関わりの中から育んできた思いが語されました。お金には代えられない真の「豊かさ」とは、そしてだれもが「いのちかがやく」世界をいかに築くかを考え、さらに次の世代に思いをつないでいくことの大切さを語る貴重な機会となりました。

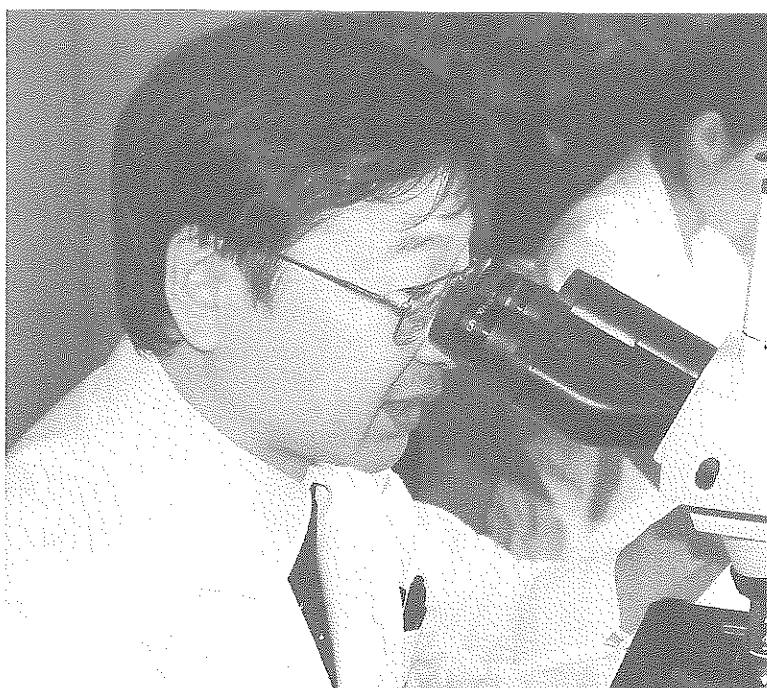
最後に、屋久島からかけつけてくれたオーストラリア在住の環境活動家で歌手のアンニヤ・ライトさんが娘のパチャさんと、「自分にできることをする」というハチドリ・クリキンディの物語を朗読し、彼女の歌を2曲演奏してくれました。「いのち」のテーマを伝える歌を会場のみんなも共に歌いました。

この会で語られたことをもとにしながら、これから支援活動のあり方をさぐっていきたいと思います。参加して下さったみなさん、そして会場提供等、いろいろお世話をいただいた朝日新聞労組のみなさんには、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

2006年第6回ブレスト検診 報告

現地医師による

検診体勢の完成に向けて



ベラルーシでの検診に臨む渡會さん

「はじめに」

私たちちは2006年10月30日～11月7日の9日間の日程で、ブレストにおける第6回甲状腺癌検診に参加しました。

2006年4月にはチエルノブイリ事故から20年の節目を迎え、マスコミでも盛んに報道されました。

日本医科大学からの医療スタッフとしては、内分泌外科教授の清水一雄先生、研修医で学生の頃から参加している高橋恵理佳先生、そして私が細胞検査士（臨床検査技師）として参加しました。

私は今回で3回目の参加ですが、前回までのフランクフルト経由からモスクワ経由と変更になり、雪国の山形県鶴岡市生まれである私も震えるマイナス6度～12度の厳しい初冬のベラルーシも経験しました。

また、今回は新たな検診の拠点である“ラゴイスカ地区”での検診のデモンストレーションを予定していましたが、現地の都合がつかず病院の視察になりました。実際の検診は次回への持ち越しとなりました。

「ブレスト検診」

「まとめ」

今回は、穿刺・細胞の処理はエレン医師とウラジミール医師のペアが担当し、ギムザ染色はアリーナ医師にお任せすることができました。

実質的な検診期間は11月1日午後～

その結果、我々はエコー診断および

11月3日までの約2日半で、今回も事前にアルツール医師らの移動検診により結節性病変のある住民の方を選んでいただき、受診していただきました。

検診人数はトータル50名（男性4名・女性46名）でした。

「検診結果」

①検体不適正…0名（0%） ②良性…35名（70%） ③鑑別困難…8名（2%）
④悪性の疑い…3名（6%） ⑤悪性…4名（8%）

“悪性の疑い”および“悪性”判定は全て乳頭瘤の疑いで、“鑑別困難”には濾胞腺腫あるいは濾胞癌が含まれる可能性があります。

そして、今回の検診で発見された乳頭瘤の疑いのある20歳の女性1名が今年2月にアルツール医師らと共に来日し、日本医科大学付属病院にて清水教授執刀による首に傷が残らない内視鏡手術を受ける予定になっています。

細胞診断に集中することができ、2日半という短期間に50名もの仮診断を出すことができました。

これは、現地医師の穿刺技術と意欲の向上により成し得たことであり、現地医師による検診体勢が完成しつつあると考えます。

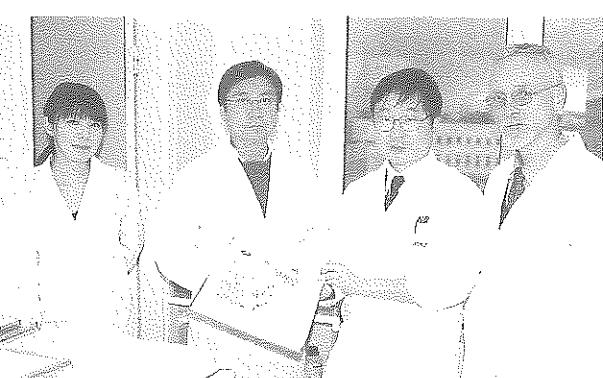
私が初めて参加した2003年の検診では単なる見学者であつた現地医師が、見事に細胞診を含めた検診を主導できる医師へと成長を遂げていたことに驚きました。このことは、支援運動による長年の継続した活動の大きな成果と言えるでしょう。

「今後の活動および問題点など」

現地医師の穿刺吸引し細胞を採取する技術は、今回の検体不適正（診断に十分な細胞が採れない）が0名という結果から解るように（通常は1割～2割は不適正）、現在は日本で細胞診を研修したアリーナ医師が一人で細胞診を診断しているため、処理できる細胞診の数は限られたもとのようになつており、既に日本の医師を超えるレベルに達しており、エレーナ医師の医師もしくは、世界的に資格者が増えのような第二世代医師への技術の継承も実現しています。

甲状腺はその臓器の特殊性から他臓器で行われるような組織生検が行われず、「穿刺吸引細胞診」が最終診断である「組織診」の役割を担っています。

今後は、細胞診を診断できる医師の育



検診を終えて記念撮影。左から高橋医師、清水医師、渡會検査技師、ウラジミール医師

べラルーシをインターネットでつなぎ、遠隔診断およびコンサルトレーショント（可能とする）などの方法が考えられます。それに費用面と必要な機材・人材などに長所・短所があり、より現地が望む支援のためには今後も検討を重ねながらの継続した支援が必要であると考えます。

以下に現在の問題点を挙げてみました。
＊現地での診断はあくまでも仮診断（暫定診断）である

2004年より、プレパラートの持ち出しが禁止となつたため、持ち帰つて診断することができず、やむなく現地で診断を下すこととなりました。

日本では細胞診断は私のような細胞検

査士が仮診断し、その後細胞診専門医がかけて細胞の見方を習得する必要があります。

成が必要になると思われますが、診断で

現地医師の穿刺吸引し細胞を採取する

技術は、今回の検体不適正（診断に十分な

細胞が採れない）が0名という結果から

解るように（通常は1割～2割は不適正）、現在は日本で細胞診を研修したアリーナ医師が一人で細胞診を診断しているた

め、処理できる細胞診の数は限られたも

とのようになつております。

日本と同レベルの診断をするには細胞

の医師もしくは、世界的に資格者が増え

のような第二世代医師への技術の継承も

実現しています。

甲状腺はその臓器の特殊性から他臓器

で行われるような組織生検が行われず、

「穿刺吸引細胞診」が最終診断である「組

織診」の役割を担っています。

今後は、細胞診を診断できる医師の育

ところが、パパニコロウ染色の必要性は十分理解していても、試薬がギムザ染色に比べ25倍も高いという経済的な理由から、パパニコロウ染色が普及していません。

「最後に」

新年の報道では、ロシアからのベラルーシへの天然ガス供給価格が約2倍の100\$でロシアと合意し、ベラルーシ

経済に大打撃を与えるとの報道があります。

出しが禁止となつたため、持ち帰つて診断することができます、やむなく現地で診断を下すこととなりました。

日本では細胞診断は私のような細胞検

査士が仮診断し、その後細胞診専門医が

かけて細胞の見方を習得する必要があり

ます。

成が必要になるとと思われますが、診断で

現地医師の穿刺吸引し細胞を採取する

技術は、今回の検体不適正（診断に十分な

細胞が採れない）が0名という結果から

解るように（通常は1割～2割は不適正）、現在は日本で細胞診を研修したアリーナ医師が一人で細胞診を診断しているた

め、処理できる細胞診の数は限られたも

とのようになつております。

日本と同レベルの診断をするには細胞

の医師もしくは、世界的に資格者が増え

のような第二世代医師への技術の継承も

実現しています。

甲状腺はその臓器の特殊性から他臓器

で行われるような組織生検が行われず、

「穿刺吸引細胞診」が最終診断である「組

織診」の役割を担っています。

今後は、細胞診を診断できる医師の育

により診断を行つていますが、甲状腺癌のほとんどを占める乳頭癌という種類の癌を診断するためにはパパニコロウ染色

と組織の照合により細胞診の見方を学

ぶ）③テレサイトロジーの実現（日本と

チエルノブイリ原発事故 ベラルーシ、ブレスト州の

甲状腺検診

広島甲状腺クリニック
武市 宣雄 医師



甲状腺ガンの検診を行う武市医師

チエルノブイリ支援運動・九州の皆様と一緒にベラルーシでの甲状腺検診の取り組みを始めたのは、1997年の事でした。今回（2006年）の検診で10年が経過しました。あつという間の10年でしたが、驚く程の成果が上がったと思います。

広島の原爆被爆者に行っている「甲状腺癌早期診断・検診システムをチエルノブイリへ」が最初の合言葉でした。まず検診車を日本から送り込み、これに検診に必要な医薬品（エコー診断装置を中心とし、穿刺吸引、細胞の染色に必要な資材や顕微鏡）や、日本からの検診団を乗せて行く、というものでした。甲状腺癌診断に最も大切なものは、エコーガイド下に甲状腺から細胞を安全に確実に注射針の中に吸引することです。

しかも1回に20～40人の人からですのでも、それに最適なもので、しかも携帯に（検診車に乗せる）便利なものでないといけません。我々は一貫してそのベストのものを使つており、現地の先生方もこれを使いこなして下さるようになりました。これも皆様の支援のおかげと感謝しています。

ベラルーシではミンスク（首都）の先生方と、地方・ブレスト州の先生方の連携がうまくいっており、検診の度に若い先生方が研修を兼ねて数人ついて来られますが、研修を行なう武市医師

数年前からはブレスト州立内分泌センターのグレゴロビッチ・アルツール先生（2005年からは所長）が甲状腺の穿刺吸引を行い、その補助をウラジーミル・シブタ先生が行い、又細胞診断はアルツール先生の奥様のアリーナ先生が行うようになり、広島の私のクリニックで行うとほぼ同様の事が行われるようになりました。この3人の先生方は全員皆様の援助で広島に来られ、研修をされました。

ブレスト州での検診には当初から「ベラルーシ赤十字」がコミットしており、2006年4月19日と20日にミンスクで開催された「チエルノブイリ原発事故20年の国際会議」でベラルーシ赤十字総裁から、我々の行つてきた日本からのボランティア医療支援とその成果に対する感謝の言葉が述べられました。私もその専門家分科会で「チエルノブイリ原発事故20年と甲状腺・ブレスト州での検診も含めて」という演題で、この10年間の検診結果の一部を発表させて頂きました。早く皆様にも報告させて頂けたらと思います。

これまでの10年間の甲状腺検診は甲状腺を早期発見する事が第一の目的であり、第二は現地の先生方が、自分達の手でこれをを行うように支援する事でした。それらの当初の目的は問題なく達せられたと思います。

次に問題となるのは、本当に原発事故によつてこれらの甲状腺癌が発生したのか、という点を鮮明にする事であり、又甲状腺癌の部以外の甲状腺に被曝の影響が見られるのかという事です。その為には私は、高度汚染（被曝）地と中等度汚染地、低（非）汚染地の三者を比較しなければいけないといました。高度汚染地にはストーリン地区が、中等度汚染地にはブレスト地区が、低（非）汚染地としてはビエズスク州が相当すると思います。これらの比較をすると共に、これらの各地に広島の甲状腺検診システムを拡げようと考えました。これらが完成した時、ペルーシ国民から我々のやつてきた事、やつている事に本当の評価を下さると思っています。国家レベルではなく、ボランティア・レベルでも出来る国際的平和貢献です。

しかし、残念な事が一つあります。甲状腺の穿刺吸引細胞診です。これまでの殆んどすべてがブレストの病院（ブレスト悪性腫瘍病院、内分泌診療所）に保存されているため、日本で行うように、同

じ日にこれらの各地の甲状腺をゆっくりと顕微鏡下に比較することができないのです。国が細胞スライドの国外持ち出しを禁じているからです。そのため仕方なく、今年（2007年）は山田英雄氏、星正治先生と三人でブレストに行き、時

間をかけて前述した三地域の甲状腺を鏡頭し、被曝影響の差があるか、あるとすればそれは何か、を調査（鏡頭）して来たいと思います。

最後になりましたが、今回第26次調査で、私、当クリニック検査技師久保田有紀さん、医療通訳山田英雄氏の3人が派遣されまして、ストーリン地区（高度汚染地区）で54人の甲状腺検診を行い、又「ベラルーシ医学再教育センター創立75周年記念式典（G・フルツプ同センター所長）」に於いて、「日本における卒後研修について」というスピーチを行つてきました。今回のストーリン地区での甲状腺からの穿刺吸引細胞診の47例は、前回検診でのビエズスク（低・非汚染地）の症例と共に、被曝の影響を見るために重要な役割をするものと思います。記念式典の出席者は約300人で、日本から

チエルノブイリ支援運動・九州 ストーリン検診2006 武市クリニック 久保田有紀（臨床検査技師）

この度、ストーリン地区における検診団に初めて参加することとなつた。医療器具の持込の制限があり、不安を抱きつつストーリン地区病院に到着したが、検診におけるセッティングがアルツール医師他により、完全に整つてることに感激した。

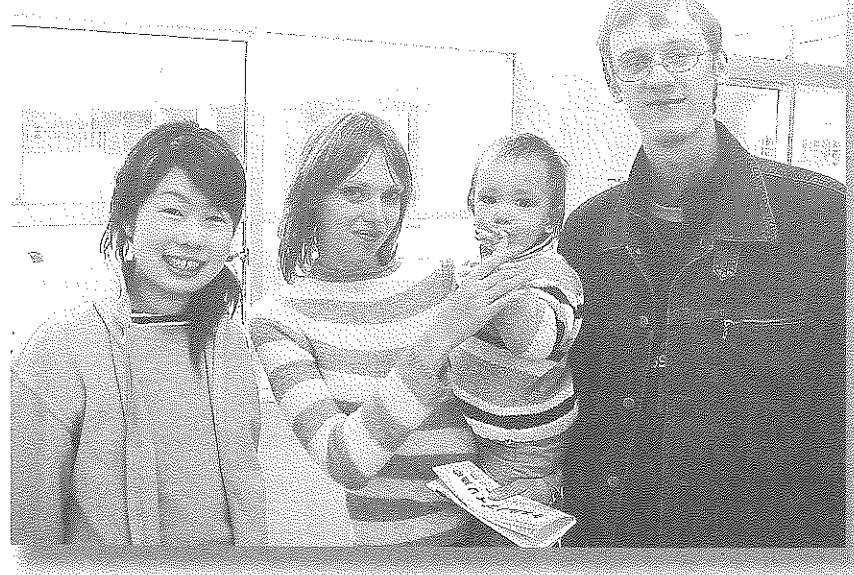
検診が開始され、日本とは違う穿刺吸引用のカテーテン針に、戸惑いもあったが、迷惑にならぬよう、補佐に専念した。穿刺吸引している間、別室にてウラジミール医師が染色を手伝つてくださり、助かつた。プレパラートの持ち帰りが不可能というのを事前に聞いており、検診後、染色、封入、検鏡の作業を全て終えなければならず時間にゆとりがなかつた。また、検体に関して、尿や血液の持ち帰りもできず、例年行つてゐる尿中ヨードや重要となるTgAb（抗サイログロブリン抗体）の検査も行えず、非常に残念だつた。

初めてこのプロジェクトに参加したが、現地スタッフの手際のよさには、本当に驚いたし、ここに至るまでの多大なる苦労を垣間見たようだ。現地スタッフが日本の医療技術を習得し、要領を得ているおかげで、検診はかなりスムーズだつたし、他の作業も難なくやり遂げることができた。甲状腺における癌の発見率も上がつたのではないだろうか。今なお、被曝の影響で苦しむ人々を、より多く救うことができる国になることを、心から願う。



検査を行う久保田さん

人のやさしさを見るとかでまたこと。 それが一日の収穫です



事務局長を退任した

吉本さんからメッセージ

この度、9月末日をもちまして事務局を退職いたしました。会員の方々をはじめ、この活動に関わるすべての皆さま、これまでたいへんお世話になりましたがどうございました。何かと行き届かない事務局員であったかと思いまが、皆さまにアドバイスやご指導をいただき、これまでの3年9カ月の間、大過なく務めてまいりました。

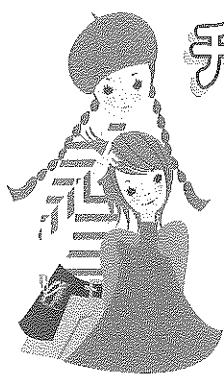
特に事務局長に就任した当初はその責任が重く感じられ、一般の人々の「チエルノブイリ」に対する関心の薄れと、それに伴い徐々に支援運動・九州の活動が縮小していくことに不安や焦りを感じていましたが、周りで励ました。おかげさまで、ベラルーシでの甲状腺ガン検診も継続して実施することができ、昨年は事故後20年目の国際会議にも参加・報告する機会を得られ、NPO法人の申請手続きも済ませることがあります。

この度、9月末日をもちまして事務局を退職いたしました。会員の方々をはじめ、この活動に関わるすべての皆さま、これまでたいへんお世話になりましたがどうございました。何かと行き届かない事務局員であったかと思いまが、皆さまにアドバイスやご指導をいただき、これまでの3年9カ月の間、大過なく務めてまいりました。

特に事務局長に就任した当初はその責任が重く感じられ、一般の人々の「チエルノブイリ」に対する関心の薄れと、それに伴い徐々に支援運動・九州の活動が縮小していくことに不安や焦りを感じていましたが、周りで励ました。おかげさまで、ベラルーシでの甲状腺ガン検診も継続して実施することでき、昨年は事故後20年目の国際会議にも参加・報告する機会を得られ、NPO法人の申請手続きも済ませることができたことがあります。これまでの間、事務局の業務を担つてきました先輩事務局員の方々の顔が頭に浮かび、その有能さを思いつつ手本にさせていただきました。まだまだ、運営委員としてどのようなかたちで関わることができるのかと模索中ですが、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

この度、9月末日をもちまして事務局を退職いたしました。会員の方々をはじめ、この活動に関わるすべての皆さま、これまでたいへんお世話になりましたがどうございました。何かと行き届かない事務局員であったかと思いまが、皆さまにアドバイスやご指導をいただき、これまでの3年9カ月の間、大過なく務めてまいりました。

特に事務局長に就任した当初はその責任が重く感じられ、一般の人々の「チエルノブイリ」に対する関心の薄れと、それに伴い徐々に支援運動・九州の活動が縮小していくことに不安や焦りを感じていましたが、周りで励ました。おかげさまで、ベラルーシでの甲状腺ガン検診も継続して実施することでき、昨年は事故後20年目の国際会議にも参加・報告する機会を得られ、NPO法人の申請手続きも済ませることができたことがあります。これまでの間、事務局の業務を担つてきました先輩事務局員の方々の顔が頭に浮かび、その有能さを思いつつ手本にさせていただきました。まだまだ、運営委員としてどのようなかたちで関わることができるのかと模索中ですが、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



チャリティヘアサロン・スネガピーク 2006福

報告／三島さとこ(切尔ノブイリ支援運動・九州 事務局)



チャリティカットの様子

「美容師として何かできる」とは「ないか」と、一人の stylist の想いから動き出した一日限りのチャリティヘアサロン・スネガピーク(ロシア語で雪だるまと云う意味です)。プロの stylist に髪を切ってもらい、その収益を医療支援活動にあてるというこのイベントには毎回、老若男女問わず多くの人々が来店されます。3 度目となつた昨年 10 月の開催でも多くの方々の協力により、大盛況のうちに幕を下ろすことができました。

実は今回カット料金を少し値上げしたため、人が集まるかどうか正直かなり心配していました。しかし予約のお電話を受けたとき、「過去に参加したことがある」という方や「去年は用事があつて行けなかつたが、今年はぜひ」という方もいらっしゃり、このイベントの知名度が上がっていることに小さな喜びを感じつつ、予約がたくさん入りますように…と祈りました。

結果的に予約は定員に達し、イベント当日は過去最高の 132 名のお客さまが来店されました。当日までの準備・打ち合わせなど、「ああ、キツい」と思ったこともありました

が、ヘアカットを終え、「」やかな表情で会場をあとにされる方を見た。なんとか、忙もれしくなりました。また当日最も忙しいはずの stylist・アシスタントの方々(ヘアサロンスタッフの皆さん)、大村美容専門学校の先生と学生さん)が、笑顔を絶やすず、楽しそうにこのイベントに参加されている姿も印象的でした。

「切尔ノブイリ」について知っていた人も、知らなかつた人も、このチャリティヘアサロンをきっかけに人々へ目をむけてくれればいいなと思いました。誰でも気軽に、そしてオシャレにできる国際協力として、これからもこのチャリティイベントをつづけていきたいです！

★来場者アンケートより…
*「ういうイベントが福岡でできるのはとても良いと思います。お客様も喜んで、人の役にも立てて、ダブルで良い！」

★「132名がヘアカットする」というて生まれた収益 161,150 円は、昨年 10~11 月に「ベラルーン」を訪問したメンバーへ託され、現地関係者へ贈呈されました。

*「 Chernobyl の」とも思ひ出すことだからよかったです。
*ずっと続けてほしいし、毎年来た *自分ができる」とで、何か役に立てる」とはいですね。

★ヘアサロン・スネガピークを成功に導いた皆さまを紹介

▼協賛・協力：(株)ミルボン、(株)アーティメントコスマス、(株)日立メティコ、(株)ウインドファーム、グリーンコーポ生活協同組合ふくおか

▼会場提供：

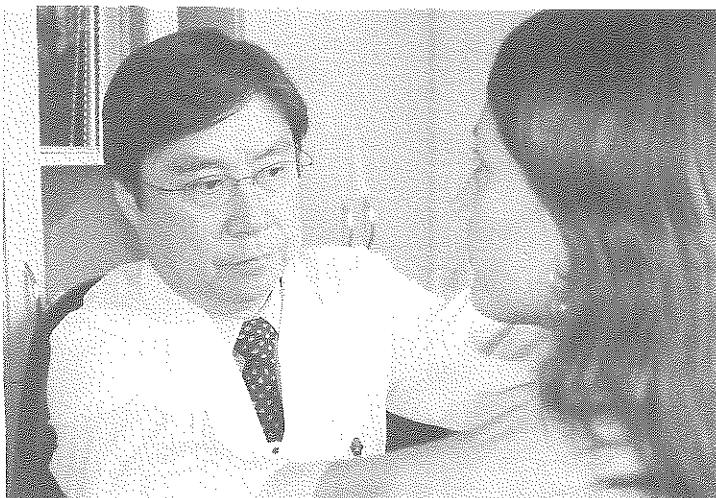
学校法人 大村文化学園

132名の来場者の皆さま、そして協力ありがとうございました!!

ベラルーシ、ブレストでの第6回検診に寄せて

文／清水一雄 医師（日本医科大学外科学講座主任教授・内分泌外科部長）

(チェルノブイリ通信号外より転載・一部修正)



清水一雄 医師

検診を行う清水一雄医師。1999年、2000年、2004年、2005年に引き続き、ベラルーシでの検診は今回で5回目の参加となる。現地の医師の技術向上に取り組むとともに、日本国内においても医学生にチェルノブイリの現状を伝え、医学生が検診の現場に参加する機会を作っている。

君、中村壮香さん）が独自の意思で参加、同行している。学生のこの意欲、積極性に呼応して日本医科大学では時間的、経済的に様々なバックアップを始めると、という本学学生の行なう課外活動の一環として理想的な形を取りつつある。本年も学生から参加希望があつたが残念ながら申し出るのが遅く、手続きが間に合わないという結果になってしまった。

しかし、学生時代に2度もこの検診に参加し、このたび医師となつた研修医の高橋恵理佳先生がまた、参加してくれる。今度は、学生としての支援活動で行なうわけである。私として

私は1999年からこの有意義な検診に参加させていただいているが、2001年からは、私どもの日本医科大学から、私以外の医師（江本直也医師、高津圭介医師）および細胞検査士（渡會泰彦さん、村瀬幸宏さん）が参加するようになり、3年前からは毎年、医学部学生（高橋恵理佳さん、賀来佳男君、中村壮香さん）が独自の意思で参加、同行している。学生のこの意欲、積極性に呼応して日本医科大学では時間的、経済的に様々なバックアップを始めると、という本学学生の行なう課外活動の一環として理想的な形を取りつつある。本年も学生から参加希望があつたが残念ながら申し出のが遅く、手続きが間に合わないという結果になってしまった。

しかし一方でアルツールの細胞検査技術の上達に伴い彼自身が現地医師6人を指導し一人前にしていると聞き大変感銘を受けた。今回の強行日程も彼らとともに乗り切れると思つてゐる。

今、現地で腫瘍に穿刺するのは現地医師が行わねばならないことになっているようで私が行なうことではない。私は穿刺の必要な病変部を指示することが主な役目であるので以前と比べ随

は、大変頼もしい後輩が出来たと思つてゐる。さて、今回の検診は、今までと違つてモスクワ経由という私にとって検診では初の体験である。モスクワには何回か行ったことがあるが乗り継ぎには不安がないわけではない。キエフでの学会に行くときの乗り継ぎでは足止めにあい、不快な思いをしたし、昨今のテロなどに代表される検閲での厳しさなど医療活動物資、支援物資を抱えての移動に問題がなければよいがとにかく、新たな気持ちで臨んでいい願つてゐる。

将来の更に実り多い検診に向かって、新たな気持ちで臨んでいきたい。そこで、私が考案し、今まで最も多くの学会に行くときの乗り継ぎでは足止めにあい、不快な思いをしたし、昨今のテロなどに代表される検閲での厳しさなど医療活動物資、支援物資を抱えての移動に問題がなければよいがとにかく、新たな気持ちで臨んでいい願つてゐる。

しかし一方でアルツールの細胞検査技術の上達に伴い彼自身が現地医師6人を指導し一人前にしていると聞き大変感銘を受けた。今回の強行日程も彼らとともに乗り切れると思つてゐる。

今、現地で腫瘍に穿刺するのは現地医師が行わねばならないことになっているようで私が行なうことではない。私は穿刺の必要な病変部を指示することが主な役目であるので以前と比べ随分楽になつた。この中でやはりいつも大きな負担を背負うのは

細胞検査士の渡會さん、村瀬さんである。多数の標本を染色、顕鏡し、その上診断を下し、結果を現地へおいてくるのは限られた時間の中でも大変な業務である。

この作業は我々がなかなか手伝えるものではなく細胞検査士の苦労が伺える。可能であればこの部分の増員が望ましい。

事故後20年を越えたこの年、顕鏡し、その上診断を下し、結果を現地へおいてくるのは限られた時間の中でも大変な業務である。

この作業は我々がなかなか手伝えるものではなく細胞検査士の苦労が伺える。可能であればこの部分の増員が望ましい。

細胞検査士の渡會さん、村瀬さんは、大変頼もしい後輩が出来た

細胞検査士の渡會さん、村瀬さんは、大変頼もしい後輩が出来た

医学生から医師になった 高橋恵理佳さんからのメッセージ

学んだこと
ペラルーシでの
医療支援活動から



ペラルーシの人々から記念の花束を受け取る高橋さん（左端）

初めて Chernobyl 原発事故当時はまだ 5 歳だった私は、事故から 20 年となりました。

私が医師になつたのも、この支援活動を続けているのも、根底にある理由は同じです。それは傷付き苦しみを抱えている人の傍にいることを私という人間の一生にしようと決めたことがあります。

昔も今も、些細な虚栄心や欲望により幸福感を歪めた私達は、自己満足のために他人を傷付けながら毎日競り合つて先を急いでいるように見えます。その先には楽園が待つているという迷信をいつのまにか真実と思いつみ、我先にそこに辿り着かねばと胸元も振らずに進んでいるのではないかでしょうか。だから傍らにうずくまつていても立ち止まつて目を向けようともしません。

しかし急いで向かった先に待つていると信じている楽園など蜃気楼に過ぎないのではないでしようか。大切なものを捨て去つてまでそこに一番乗りで辿り着いても、再び日を開けた時には消えてしまつている世界

で心から笑うことができるのでしょうか。その大切なものこそ、弱きを勞わり人を思いやる気持ちや苦しみの中にある人に手を差し伸べる人間らしい優しさです。

皆心のどこかでは気付いていると思うのですが、人間としての本当の生き方はいくらでもできるという意味深いこの年に医大を卒業し医師となりました。

私が医師になつたのも、この支援活動を続けているのも、根底にある理由は同じです。それは傷付き苦しみを抱えている人の傍にいることを私という人間の一生にしようと決めたことがあります。

ところが医大に通い始めて 3 年間、目の前の試験やレポートに追われる毎日の中で私は先に進むために必死でした。医師になりたいという夢を叶えるためとはい、いつのまにか私も迷信に縛られていたのです。決して医大の特異な環境のせいではありません。私がまだその程度の意志の弱い人間だったのだと思います。

お互い思いやりを持つて自分だけでなく皆の幸せを願える場所こそ楽園です。他人を傷付けたら自分も傷付けます。誰か一人が泣いていたら、他の誰一人として幸せではないはずなのです。誰のことも独りで泣かせない温かく幸せな世界になつてほしいと思います。そのための一歩

医師になろうと決めたのではなかったと思い出した 4 年目、正直なところでも私もまだまだ小さな人間です。今は医師としての毎日の生活と Chernobyl の被災者への支援という限られた範囲だけですが、いつか世界中で私の思いを実践できたら、その

一方で、信念を貫くのは大変なことではあるけれど決して不可能なことではなく、この場所でも自分らしい生き方はいくらでもできるという希望もありました。清水先生から聞いたのは正にそのような折でした。

Chernobyl の被災者支援のお話を聞いていたのは正にそのような折でした。

是非科学的な言い方をするべき立場ではあることは承知の上ですが、あれは運命だったと思いません。支援活動に参加することで、医師こそ私たちの理想の医師を目指して勉強を続ける今に至ります。

お互い思いやりを持つて自分だけでなく皆の幸せを願える場所こそ楽園です。他人を傷付けたら自分も傷付けます。誰か一人が泣いていたら、他の誰一人として幸せではないはずなのです。誰のことも独りで泣かせない温かく幸せな世界になつてほしいと思います。そのための一歩医師になろうと決めたのではなかったことを私は踏み出してみました。と言つてしまふ医大に残るべきかと迷いました。ここにいたらまた自分の信念



検診に取り組む高橋さん

時私の夢が正に叶うでしょう。

「あなたが笑っていたら私も嬉しい。あなたが泣いていたら私も悲しい。」

これが其に生きるということです。私は医師として、一人の人間として、これから的人生を苦しみの中にいる人々と共に生きていきます。チエルノブイリ被災者も、彼らを支える医療従事者も決して独りにはしません。

幸いにも私は仲間に恵まれています。清水先生を始め、日本医科大学チエルノブイリ被災者支援会には同じ信念の医療従事者が続々と集まっています。チエルノブイリ支援運動・九州の皆様、そしてその支援者の皆様も同じ気持ちでいて下さること信じております。

私らしく生きる機会を与えて下さった皆様に心から感謝申し上げます。

(チエルノブイリ通信号外より転載・一部修正)

昨年9月1日より事務局員になりました、尾崎由美と申します。新人ですが、若くはないです。よろしくお願いします。事務局まで車で一時間、田舎から通勤しています。

NGOでの就職を探していて、偶然インターネットで事務局員の募集を見つけて、面接を受けました。そして2週間後には採用の電話をいただき、数日後には初出勤でした。

ですので、NGOの活動についても、チエルノブイリの事故についても知らないことばかりです。ましてや医療のことなど全く知りません。英語もロシア語もぶんぶんです。

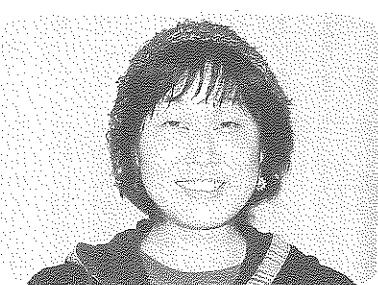
吸引穿刺の映像を見て驚いたり、作文集「私たちの涙で雪だるまが溶けた」を読んで（まだ途中ですが）涙して

みたり、貸し出し用の写真パネルに見入ってしまったり、毎日が驚きの連続です。

慣れない電話応対をしてしまった会員さんや関係者の方、大変申し訳ありませんでした。

ようやく4ヶ月がたち、電話口で「チエルノブイリ支援運動事務局です。」とスムーズに言えるようになりました。

新事務局スタッフ紹介！
尾崎由美さんからの挨拶



新スタッフの尾崎さん

検診団の渡航と帰国、通信の発送作業、イベント参加、講演会、フリーマーケット、コーヒーマート・雑貨・書籍の販売など、様々なシーンに立ち合わせていました。医療支援NGOといいながら、その活動内容の幅広さにも驚いています。

そして、その中でたくさんの出会いが続いています。お手伝いにきてくださるボランティアさん、他のNGO・NPOの職員さん、イベントで出会うお客様、関係者の方。電話でお話する会員さん、募金の郵便振込用紙に書かれた温かいメッセージ。本当にたくさんの方の気持ちが集まって活動が成り立つているのだなあと、実感しています。

フェアトレードの雑貨店で働いていたことがありますので、ベラルーシ雑貨と触れ合えてうれしいです。手づくり品のよさを、もっとたくさん的人に知つて欲しいです。

16年の歴史のあるこの団体で、事務局の先輩方や運営委員のみなさんにいろいろ教えていただきながら、頑張ります。もうとこういうことができる、

もつとこうしてほしいなどのご意見やご要望も、是非お聞かせください。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

～工房のぞみ21を訪ねて～

対話を通して見えてくる、ペラルーシの友人たちの今

文／山口 英文(チェルノブイリ支援運動・九州 運営委員、ロシア語通訳)



創作に取り組むのぞみ21のスタッフたち

のぞみの現状は、非常に厳しい。今回も、商品の買付けを待つてやつと皆に給与が払えたという事情。工場は前の半分になった。経営者のステパンさんが殆ど手作りで、壁を作り、電線を通して塗装するという状態だった。ステパンさんが大工という事もあってそういう事も可能になった。

職場は現在は裁縫場だけ。かつてあつた木工旋盤場は今は閉まっている。ひとつはオーダーが入つてこない事、もう一つは木工旋盤で巻き上げる木屑が、工場の皆の健康に悪いからだそうだ。

「皆元気だし、とても綺麗なひとばかり。身体障害者に見えないけど」と言うと、「ありがとう。でも、そんなに元気じゃない。元気だから仕事に来ているの。具合が悪いと帰るし家でじっとしている。もちろん朝から悪かつたら出勤してこないわ。」とエレーナが答えた。

「そうなの。皆、今日はなぜか元気。普通はもっと辛そう。友達が来たから張り切つているのよ。」とステパンさんのパートナーであるナターシャさんが付け加えた。

工房の片隅で作業に取り組む若い男がいる。マトリョーシカなどの絵付けを担当しているセルゲイだ。

「セルゲイは体だけでなく心も病んでいる。君はスポーツマンだから、健全な体と心の事はわかるだろう。彼は創造的な仕事は出来ない。でも、デザインを与

のぞみの現状は、非常に厳しい。今回も、商品の買付けを待つてやつと皆に給与が払えたという事も、経営者のステパンさんが殆ど手作りで、壁を作り、電線を通して塗装するという状態だった。ステパンさんが大工という事もあってそういう事も可能になった。

職場は現在は裁縫場だけ。かつてあつた木工旋盤場は今は閉まっている。ひとつはオーダーが入つてこない事、もう一つは木工旋盤で巻き上げる木屑が、工場の皆の健康に悪いからだそうだ。

「皆元気だし、とても綺麗なひとばかり。身体障害者に見えないけど」と言うと、「ありがとう。でも、そんなに元気じゃない。元気だから仕事に来ているの。具合が悪いと帰るし家でじっとしている。もちろん朝から悪かつたら出勤してこないわ。」とエレーナが答えた。

「そうなの。皆、今日はなぜか元気。普通はもっと辛そう。友達が来たから張り切つているのよ。」とステパンさんのパートナーであるナターシャさんは「どうしても製品が華麗に作れないのは分っているの。でも、作る人は皆障がい者。彼らは一つ一つを手作りで作るしか方法がないの。プログラミングミシン等で刺繡を作れるけど、刺繡コンピュータ付きのミシンはとっても高い。500ドル以上はするし。それだけでどのくらい売れるかも分らないの。

「セルゲイの健康を害するよ。今ある塗料は全部、自然環境に良いものだけを使っている。当然セルゲイの体にも悪くない。製品の見た目を良くして作る人の健康に配慮しない事はのぞみの主旨と違ふから。」

ナターシャさんは「どうしても製品が華麗に作れないのは分っているの。でも、作る人は皆障がい者。彼らは一つ一つを手作りで作るしか方法がないの。プログラミングミシン等で刺繡を作れるけど、刺繡コンピュータ付きのミシンはとっても高い。500ドル以上はするし。それだけでどのくらい売れるかも分らないの。

モスクワやミンスクのデパートで売ら言ふと、皆がはにかんだ。

工場の皆は、我々が来たことで嬉しいのか、最初はちょっと控えめだったが、お茶の時間になるとだんだん打ち解けた。全員のVTRレターを作りたいと

工場の皆は、我々が来たことで嬉しいのか、最初はちょっと控えめだったが、お茶の時間になるとだんだん打ち解けた。全員のVTRレターを作りたいと

モスクワやミンスクのデパートで売られた正確に書いてくれる。一つ一つ心をこめて。きっと彼が言いたいこともそのままに描き入れてあるんだよ。」とステパンさんが言った。

何よりも皆の給料を払うのが先だし。」と
言つた。

「注文があれば、どんどん作るわよ。でも私たちの一番の悩みは注文が来ないこと。半日仕事をしないでお茶を飲んで帰ることもあるの。」とエレーナが言う。

「また来てね。貴方達が来てくれたら

本当に元気が出でてくるから。」と言つて彼らが帰り始めた。

一見、顔色もいいし、ベラルーシの若い女性にもれず美人だが、歩きはじめると足取りがかすかにおぼつかなかつたり、すこしひきずつたりしている。

明るい彼だからこんな事も言えるのだろうか。

ステパンさんに聞くと「障がい者への

見かけない。

年金どころか、健常者でも給与は上がっていないよ。物価はあがつたし、モノは増えたけど。なんでも高い。だから改築も自分でした。何でも自分でやるのがベラルーシ式だ！」と笑いながら答える。

ナターシャさんとステパンさん



少しば造園の事はわかるのだけどと言

う。「いや、そんな事はない。日本だって豊

この国の障がい者保護はどうなつていいのだろうか。繁榮し始めたと実感出来ているのだろうか。街でも日本ほどバ

リアフリー（わが国も進んでいるとは思えないが）や車椅子で外出している人を見かけない。

さんは頭の腫瘍の手術を受け、その後、長時間乗り物に乗ることが辛いままだ。時のお礼だよ。お礼だけじゃない。こんなにいい人達がいる国だ。この國の人と同じ言葉で話してますます好きになつた。重い歴史や社会体制とかよりステパンさんやナターシャさんが好きだから。

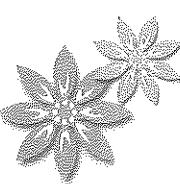
日本家庭の団欒と一緒に。ナターシャさんは頭の腫瘍の手術を受け、その後、長時間乗り物に乗ることが辛いままだ。時のお礼だよ。お礼だけじゃない。こんなにいい人達がいる国だ。この國の人と同じ言葉で話してますます好きになつた。重い歴史や社会体制とかよりステパンさんやナターシャさんが好きだから。

は大きな貢献があつたんだ。」と山田さん

も語つた。

「チエルノブライリだつて同じ事。その家族の歴史を語りだした。「お爺さんはゴメリで警察署長か士官だった。立派な人には心が豊かになる。お互に友情は次々と外国に出て行こうとしている。ベラルーシでの生活はけつして楽でない。シガソ連に組み込まれた時に、シベリア生物学的にも限界がないらしい。」と言つて皆でしつかりとうなずき合つた。

いた。ペレストロイカで情報公開があつたのでシベリアのどこで死んだか確認しに行つた。そしたら全くの嘘だつた。彼はゴメリを出て直ぐにゴメリの郊外で銃殺されていた。埋葬地は未だ以つて分らない。たとえ出てきても埋葬地自体の情報も怪しいよ。この国は日本のように優しい国じやない。重い歴史だよ。」と静かに語つた。



たゞやかの募金を ありがとうございました

(敬称略・順不同)

永瀬昭子 得能美樹 井上裕子 白水明代 ピッコラ
マーノ 松崎光子 ボーラスカウト大分5団 宮元寿子

畠川明子 日本医科大学有志・チエルノブイリ原発事
故被災者支援会 下田豊文 今川靖雄 京子 信畠真紀

小塙忠理子 栗田光子 サトウ矯正歯科クリニック
山崎末吉 山内悦子 田代裕子 恵藤智勝 小山信子

永江之子 堤安佐枝 里見照子 太田千賀子 木村みさ
子 中島俊子 林由実子 村上和代 深堀ミチ子 福井
寿雄 石川千恵子 田嶋美奈子 前田靖子 河野穂波

華井紀子 佐野佐智子 稲吉清子 山口輝生 佐々木郁
江 永野沙智子 野村文子 財津悠子 小野田児童館

井上礼子 SY友の会 野田えみ子 小島輝巳 有川恭
子 富永三恵 岩口香織 中村照子 佐藤一司・一江

土持秀男 高田有美子 高山幸子 櫻井美喜子 堀江誠
子 岸川美好 伊藤都司治 廣底裕子 田中順子 秋永

優子 遠藤礼子 宮元美帆 援助修道会 日比野由紀子
狩野浪子 佐田映子 榎本みつ枝 吉田純枝 チエル

ノブイリ絵画展事務局 中島幸代 岡雅子 西首延子
Steven&Makie Sabotta グリーンコーポ生活共同組合

ふくおか 芝山祥子 黒岩英子 徳光清孝 西尾れい子
佐藤久美 石橋啓子 ミヘイチ・グレゴリー 庄籠道

子 引田良子 後藤絵里 宮本カズコ 大谷正穂 浜北
香代子 桜島一郎 倉橋道子 上里恵子 遠矢秀三 北
野溥 今中哲二 吉村美美 チエルノブイリとキリスト

者・九州 本田美穂子 飯岡知子 内田明子 栗屋千恵
子 橋田順子 白濱豊 豊田直也 秋永優子 武田祐
平・芳子・萌・路 渕田三輝 吉次マミ 福澤保子 森

募金者からのメッセージ「部抜粋」

●お役に立てれば幸いです。

●清水先生、高橋先生の想いに触れて、胸が熱くなりました。

自分にできる形で支援を続けていこうと思いました。

●真心、親切、思いやりの心が広がり、笑顔あふれる世界になりますように!

●高橋さんの文章、心に響き、何度も読みました。今回の検診が無事に、そして意義深いものとなりますように。

●この運動が末永く続きますように祈っています。

●NPO法人化の後、活動がさらに広まることを祈っています。

●マトリヨーシカとつても可愛いです。感激!!

●マトリヨーシカちゃんが届いて娘は大喜びです。ひとりひとりに名前をつけて楽しそうに遊んでいます。

●被害を受けた子供達が幸せな生活を送れるよう祈っています。

●原発の事故が二度と起きないことを願いつつ:

●2007年は少しでも世界に明るい光がさしますようにご多幸をお祈りします。

●気持ちばかりですが、少しでもお役に立てば幸いです。

●喜びも悲しみも分かちあいましょう!

●小さな小さな灯をともし続けたいです。

●皆様の幸せを心よりお祈りいたしております。

●被災者の方々のご健康と癒しを心よりお祈りしています。

●活動報告いつもありがとうございます。

募金内訳	3,000円コース	2,700,000円(87件)
	5,000円コース	1,00,000円(20件)
	10,000円コース	1,90,000円(18件)
「のぞみ21」カンパ	3,4,679円(14件)	
その他カンパ	1,021,106円(165件)	
(分割払いの方もいるので数字は割り切れません。)	合計	1,615,785円

★株式会社カタログハウスより、350万円の活動支援
募金をいただきました。

★「ブレストにおける第6回検診」では、
カタログハウス『通販生活』読者の皆様より、150
万円のカンパをいただきました。

財団法人福岡国際交流協会より、「福岡国際協力人材
育成助成金」として専門家派遣費20万円をいただきました。

成和産業株式会社、株式会社日立メディコ、武藤化学
薬品株式会社より、検診機器・試薬等の調達や輸出に
あたり、多大なご支援、ご協力をいただきました。